

# 柳川市で発生した災害の記憶

発生を予測することが困難な自然災害。ここでは、近年市内で発生した主な災害を振り返ります。同じような災害が発生したとき、あなたはどの行動しますか。過去の災害を教訓に、危険は常に身近に潜んでいることをしっかりと認識しましょう。

**平成24年** 7月11日から14日まで降り続いた記録的な豪雨により、7月14日に沖端川の中山地区と矢部川の六合地区の2カ所の堤防が決壊。市内の3分の1が冠水し、380戸の住宅が床上浸水しました。また、農地は土砂で埋まり、農業用施設や機械にも甚大な被害が出ました。中島漁港では42隻の漁船が流出。有明海には無数の流木が流れ込みました。企業や商店なども浸水による被害を受け、市内の被害総額は約24億円。九州北部豪雨と名づけられたこの豪雨は、福岡、熊本、大分の3県に及ぶ大災害となり、国は激甚災害に指定しました。



平成24年の豪雨で避難者をボートに乗せて移動させる自衛隊員（写真提供：陸上自衛隊）

**平成28年**の熊本地震では、4月16日未明に市内で震度5強を記録。市は、地震で初めてとなる災害対策本部を設置しました。旧市民会館や大和、三橋生涯学習センターなどを避難所として開設。500人を超える市民らが避難しました。この地震で、市内では落ちてきた物に当たるなど3人が軽傷。ブロック塀の倒壊や、屋根瓦が落ちたり、寺社の塀や石灯籠が崩れたりするなどの被害が出ました。今のところ、市を含む筑後南部に、活断層は確認されていません。しかし地盤が軟らかいため、揺れやすい傾向にあります。今後も油断は禁物です。



平成28年の熊本地震では三柱神社本殿南側にある文政9（1826）年建築の木塀が倒壊

**令和2年**9月には、過去最強クラスと言われた台風10号が九州に接近。広い範囲で経験したことがない暴風、大雨による被害が出る恐れがありました。市は、通常の台風の倍以上となる避難所50カ所を設置。最大で1462世帯2901人が避難しました。幸い市内で人的被害は出ませんでした。幸い建物が損傷したり、川下りコース沿いの木が倒れたりしました。近年地球温暖化によって台風の勢力が増す可能性が指摘されています。一方で台風は気象予測技術の進歩で、ある程度の進路予測が可能です。台風が近づいてきたら情報の収集に努めましょう。



令和2年9月の台風10号の強風で根本から折れた看板を撤去する消防隊員

## 水害

## 地震

## 台風

堤防の決壊により浸水した市内（平成24年九州北部豪雨）



特集 命を守るために今できることを

# その時は突然やってくる

平穏な日常を脅かす恐ろしい災害。命をも落としかねないまさかの時は、前触れなく突然訪れます。自分や大切な人を守るためにできること、それは1人1人がその時に備えることです。

【問】市総務課安全安心係 ☎77・8152



押し寄せてきた濁流と流木で倒壊した中山地区のビニールハウス（平成24年九州北部豪雨）

## 今すぐ 避難できますか？

### 非常用持ち出しバッグの準備

- 飲料水・食料品 (カップめん、缶詰、ビスケット、チョコレートなど)
- 貴重品 (印鑑、現金、保険証など)
- 救急用品 (ばんそうこう、包帯、薬など)
- 避難用品 (ヘルメット、防災ずきん、軍手、懐中電灯)
- 情報グッズ (携帯電話の充電器、携帯ラジオ、予備電池)
- 生活用品 (衣類、下着、毛布、タオル、洗面用具、カイロ、ウェットティッシュ、携帯トイレ、マスク、除菌シートなど)

※乳幼児がいる家庭は、紙おむつ、粉ミルク、ほ乳瓶などを用意

### 私の避難所はどこ？

最寄りの避難所は、市公式サイトや市総務課で確認できます。もしもの時のために、事前に確認しておきましょう。

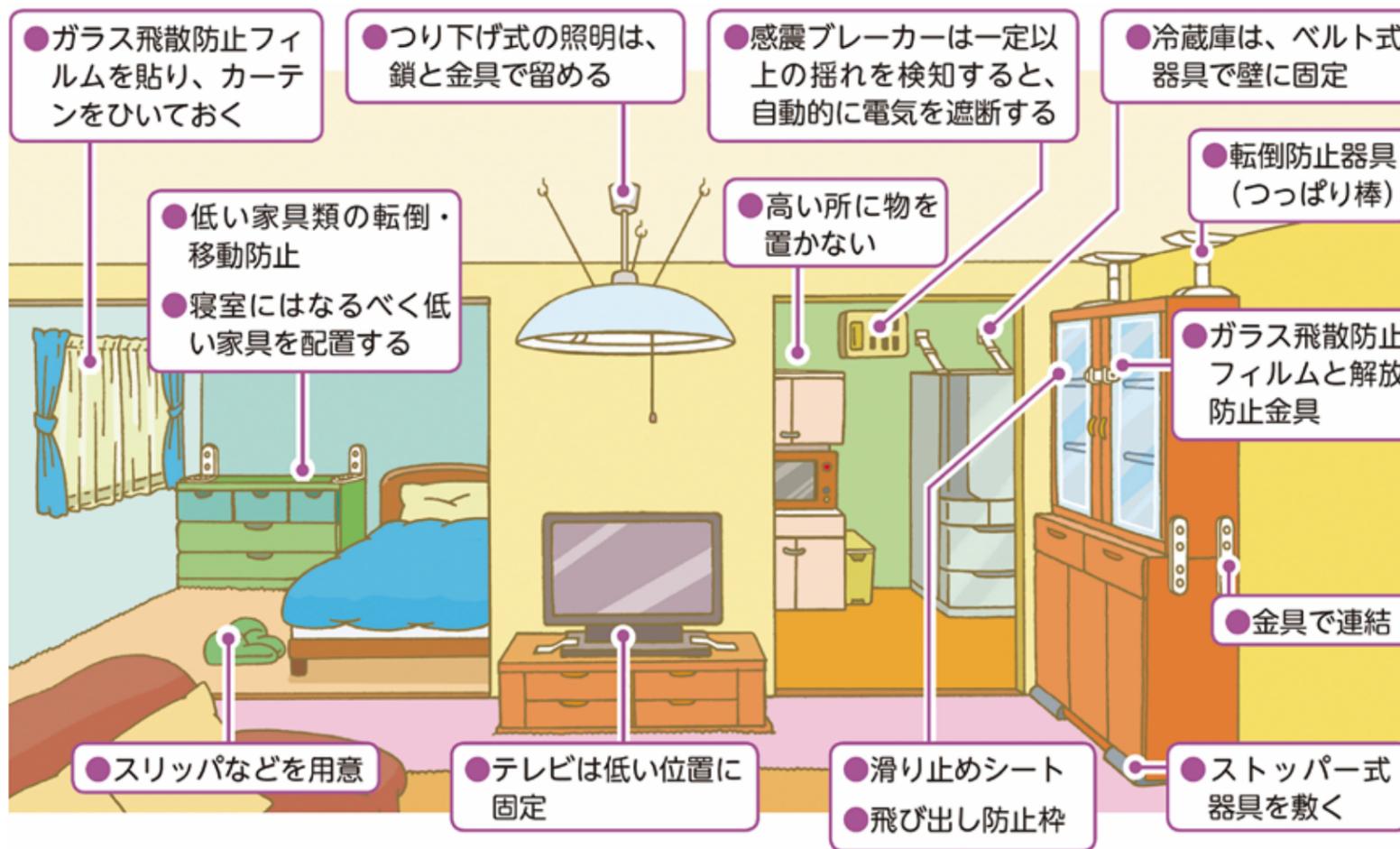
一度は自分の目で避難所を見ておいてね



避難所

# 家庭での備え

備えあれば憂いなし さっそうと今日からやってみよう



いつどこで起こるか分からない災害。予測できないからこそ、私たちは常に備えておかなければなりません。ちょっとした備えが、いざという時、大きな支えになって命を守ってくれます。

### 家を安全な場所に

災害が起こると、安全なはずの家の中が「危険な場所」になる恐れがあります。特に地震による家具の転倒や落下はとても危険です。家具を安定させるため、日ごろから重い物は下に、軽い物は上に収納しましょう。また、家具が倒れたりガラスが飛び散ったりすると、けがするだけでなく避難の妨げになります。まずは、上の図を参考に自宅で行える備えをしましょう。

### 持ち出す物をまとめる

すぐに安全な場所へ避難できるように、必要最低限のものをに入れておく非常用持ち出し袋を準備しておきましょう。寝室や玄関など置く場所を決めて、運ぶ人に合わせて大き

さや重さを調整することが大切です。左のチェックリストを参考に、避難先で無いと困るものを想像しながら準備してみましょう。いまだ収束の兆しが見えない新型コロナウイルス。避難所は「3密」の条件が揃いやすい場所です。マスクや体温計、除菌シートなどの感染防止対策品も、すぐに持ち出せるように事前にまとめておくのがおすすめです。

### 事前の準備 本日に大切です



原 利徳 さん(77歳、中山)

平成24年の九州北部豪雨で堤防が切れた日、出勤していた私は、職場のテレビで堤防の決壊を知りました。日中は道路が冠水していて家に近づくことができず、夕方になって水に浸かりながら歩いて家の様子を確認。その後、避難所で家族と合流しました。当時、まさか堤防が決壊するとは思っていなかったもので、避難する際の道具をまとめておらず、「事前の備えの大切さ」を身をもって感じました。今では、水害や台風に向けて、「非常用持ち出しバッグ」を準備しています。災害は本当にいつ起こるか分かりません。災害が起こってから準備しては遅いんです。皆さんには、避難所まで実際に歩いてみて、避難ルートや必要な時間などを確認しておくことをおすすめします。

### 安全な所にいる人はとどまることも避難

「避難は避難所へ行くこと」と考えている人が多いと思いますが、しかし、避難とは「難」を「避」けること。安全な場所にいる人は、避難所へ行く必要はありません。全世帯へ配布している防災ガイドブックに記載のハザードマップ(浸水想定図)を確認して、自宅に浸水の危険が少ない人は、自宅の2階や親戚の家など、より安全な場所への避難を検討することも大切です。ガイドブックを持っていない人は、市総務課や公式サイトで入手できます。近年、毎年とっていいほど国内で大きな災害が発生しています。「災害なんて他人ごと」と油断をせず、「自分ごと」として災害に備えてください。



木下 隆行 柳川市危機管理担当

## 警戒レベル 4 までに必ず避難を

避難情報は、5段階の警戒レベルを使ってお知らせします。5月から「避難勧告」が廃止され、「避難指示」に一本化されました。レベル3で高齢者などは避難、レベル4で全員避難と覚えてください。



警戒レベル	避難行動	避難情報など
5	すでに命が危険な状況。すぐに安全を確保	緊急安全確保
4	自宅内より安全な場所へ速やかに避難	避難指示 (全員避難)
3	高齢者・障がい者・乳幼児やその支援者は避難。その他の人は避難準備	高齢者など避難
2	避難に備え、防災ガイドブックで避難行動を確認	・大雨注意報 ・洪水注意報
1	最新情報に注意	早期注意情報

警戒レベル3・4・5 → 市が発令  
警戒レベル1・2 → 気象庁が発令



【上】昨年度、市内消防団全20分団にゴムボートを配備。水害時の救助活動で活用される  
【左】緊急のお知らせを放送する防災行政無線。昨年度設置数を増設し、市内に54機設置している



【上】毎秒6トン排水できる磯鳥排水機場。森田さんは20年近く水門管理人を務める  
【右】排水前の掘割  
【左】先行排水によって水位が下がった掘割



# 地域と行政の備え

先人が築いた財産を受け継ぎ オール柳川で災害に備える

昨年7月の豪雨で記録的な雨量を記録した筑後地方。近隣自治体で大きな被害が出た一方、市内は最小限の被害にとどまりました。何が明暗を分けたのか。そこには先人が残した掘割を生かした市民の協力がありました。

### 全国から注目を集める 先行排水

近年全国で豪雨被害が頻発する中、市民の協力で事前に掘割の水量を減らす「先行排水」に注目が集まっています。先行排水とは、豪雨になりそうなきに前もって水門を開放して、掘割の水を川や海へ排水しておくことです。市は、平成24年の九州北部豪雨で大きな被害が出たのを教訓に、先行排水を本格的に導入しています。

### 昨年7月の豪雨で被害を最小限に抑える

昨年7月の豪雨では、県内に大雨特別警報が発令。市内では7月6日午前8時からの24時間雨量が361ミリを記録。24時間雨量の過去最多を

更新しました。

市内では、7月3日の夕方から各地域の水門管理人が自主的に約70カ所の排水門を開放して先行排水を実施。雨が強まった7月6日朝には、排水ポンプ場20カ所を稼働させました。その結果、近隣自治体で大規模な浸水被害が発生した一方、市内では床上浸水が4戸と被害は最小限にとどまりました。

### 自分たちのまちは自分たちで守る

磯鳥地区の水門管理人の代表を務める森田茂久さん(77歳)は、他4人の管理人と共に5つの水門と排水ポンプで水位を調整しています。昨年7月の豪雨では、上流と下流の水門管理人と密に連絡を取りながら、24時間体制でポンプを稼働させて排水を続けました。「排水機場で4泊もしたよ」と話す森田さん。それでも「生まれ育ったところは自分たちで守らないとね」と熱い思いを話してくれました。今回紹介した取り組みは、水門管理人をはじめ、市民の理解なくしてはできません。今後とも先行排水やポンプ排水へのご理解ご協力をお願いします。

## 無料 もしものときの 情報収集

災害が起こったときは、被害の状況や避難所に関連する最新の情報をいかに入手するかが重要です。事前に自分に合った情報の入手方法を選んでおきましょう。

### 地上デジタル文字放送

- 1 テレビのチャンネルをKBC(1ch)にあわせます。
- 2 お手持ちのリモコンの「dボタン」を押します。
- 3 「dボタン広報誌」を選び、「決定ボタン」を押します。

テレビのチャンネルをKBCに合わせてリモコンの「dボタン」を押すだけ。インターネット環境が無くても、最新情報を見ることができます。  
【問】市総務課(☎77・8152)



New



市から、災害時の緊急情報をお知らせします。  
【問】市総務課(☎77・8152)

### 災害情報発信システム

市内で発生した火災や災害の情報が、携帯電話にメールが届きます。  
【問】市消防本部(☎74・0119)



### 防災メールまもるくん

知りたい場所の防災情報や避難情報が、携帯電話に電子メールが届きます。  
【問】県総務部防災危機管理局防災企画課(☎092・643・3114)